

研 修 機 関	特別養護老人ホーム 眉丈園
研 修 期 間	平成17年 9月 1日～ 9月30日
所 属 ・ 氏 名	中能登町立越路小学校 長田 敏徳

I 研修目的

- 入居者、一人ひとりの必要・意欲に応じた介護プランの作成とその実施 ・ふりかえり・プランの見直しを体験的に研修することで、個に応じた生活支援を学ぶ。
- 介護プランを実施する、職員間の連携・協同作業を研修することで、グループで利用者のねがいを支援する職員の役割分担・責任を果たす心構え・技能を学ぶ。

II 研修内容

1 介護職

- ①話し相手・コミュニケーション ②配膳・食事介護 ③清拭補助
- ④入浴補助 ⑤ルーム清掃 ⑥アクティビティ・レクリエーション
- ⑦敬老会会場準備

2 看護職

- ①ショートステイ入居時検温・血圧測定 ②服薬補助 ③経管栄養・口腔ケア見学
- ④通院補助 ⑤リハビリ補助

3 デイサービス

- ①入所時補助 ②レクリエーション ③入浴介助補助 ④訪問介護について
- ⑤居宅介護支援について ⑥居宅介護について

4 ショートステイ（短期入所）

- ①送迎補助 ②入所案内・手続きの見学 ③苦情受付について
- ④高齢者心理について

III 研修成果

- 継続され共有される介護・支援

眉丈園は介護を必要とする方に施設サービス・居宅サービス（デイサービス・訪問介護・居宅介護支援・訪問入浴介護・ショートステイ）など多面的にサービスを行っている。施設サービスではつねに介護が必要な方に食事、入浴、排泄等の日常生活の介護や健康管理を行っている。そこで、大切にされていることは衛生、整頓、快適な生活そして入居者一人ひとりへの細やかな状態観察である。

例えば、毎朝仕事に取りかかる前に、手指の衛生・うがいなどが確実にされているか職員によって復唱されている。また入居者一人ひとりにファイルが用意され引継されるたびに体調や介護内容が記され、入居者の様子が職員に共通理解されていく。そして、眉丈園では、入居者に快適な生活を提供しようと、ルーム（入居者が寝起きする部屋）パブリックスペース（みなが集まりともに過ごす部屋）とも整頓・清掃が行き届いている。職員は使うたび、気が付くごとに清掃を心がけ、室長から換気などの問題が提起されると、課長・主任を通して各ルームで取り組みが行われる。実際、ルームや廊下にはにおいがすることがない。ルームをそうじさせてもらった時に出てくるゴミの少なさに驚いた。

清拭を手伝わさせもらった時には、無理をせずゆっくりゆっくり衣服をかえ、「痛いところない。」「具合悪くない。」と呼びかけ体調に変化ないか気を配っていた。朝礼になされる事

故報告では単にあった事故を報告するのではなくどのように対応すれば良かったか、以後このようにしていこうという対応策がその都度その都度話されていく。

このように、眉丈園では全体で大切にしていこうとすることが職員に共有され直ちに取り組みが行われていく。

○願いをかなえる介護・支援

研修の始まりは、朝食のかたづけから始まる。食堂の食器をかたづけ、ゴミなどをかたづけている間に入居者のお年寄りはお室やパブリックスペースに移動している。それからお年寄りは思い思いに休息をとっている。静かで安逸な生活がそこにあった。職員は清掃・検温・排泄介護・入浴・誘導・見守りなどてきぱき仕事を進めている。そして、「〇〇さん、こっちにすわって休まんか。」とか「〇〇さん、ここで歌きいとらん。」とかお年寄りに話しかけ健やかで楽しい生活が送れるように気を配っている。お年寄りの口からも「何の気兼ねもなく、気楽に生活できる。」とか「いたれりつくせりで、ありがたい。」という言葉をししば聞くことができた。認知症の方へも、そのいうことを聞き穏やかに語りかけることで、落ち着いていく場面もししば目にすることができた。

そんな折りに、ルームケアについて話を聞くことができた。自室の近いところで食事をとり、同じ職員グループが一人のお年寄りの介護にあたりゆったりときめ細かく体調や行動の変調に目を向けていこうとする取組だということだった。そのなかでお年寄りに「もっと、こうしたいとか、あれしたいと言ってほしい。」という。その訳は、「ふるさと訪問（所内行事）で外出したいという願いがあれば、そのために車いすから立つ練習しようとか、ちゃんと食事をとって元気をつけようなど、お年寄りの生活を励まし心身の機能向上へ手伝うきっかけになるから。」ということであった。このように眉丈園・各ルーム担当者は、お年寄りから意欲や気力を引き出すために言葉かけや励まし、行事の企画に心を砕いている。

その具体的な取り組みに接することが出来た。それは、お年寄りといっしょにサツマイモを使ってお菓子作りをしたことで、お年寄りに教えられたり、手際の良さにおどろいたり、普段にない生き生きとしたお年寄りの様子に接することができたという報告や、デイサービスでお祭りにぎやかになった通りを散策する行事が企画され、ほとんどの方が参加し、お祭りを楽しんだという報告だった。

学校で指導する場面とは、相手も発達段階もちがうが人が願いや気力を持って活動していくもとなるところを目にすることができた。

○自立支援について

1か月の研修の間に食事介助・着替え介助・リハビリ補助などお年寄りへ出来ることが増えていったが、通り一遍の介助ですまないことに気づかされた。

食事介助のとき、お年寄りの飲み込むペースに合わせ、声をかけながらスプーンで食事を口へと運んでいたが、「この人はスプーンに乗せて上げたら後は自分でするよ。」と言われた。前日は全くそんなことを気にせず、総てを介助していたのだ。実際、スプーンに食事を乗せたあとは自分の手で口まで運び食事とることができていた。見守るだけでじれったくはあったが、今自分で出来ることを自分で行い、体力の維持を生活の中で行っていたのだった。この出来事から、介護が必要であっても、今ある力を維持し自立した生活を眉丈園の中でも送れるようにする自立支援に目を向けることができた。

自立支援は、至る所で見ることができた、着替えでは片方だけ腕を通して、残りを自分でしてもらい、施設の中はバリアフリーなので自分で移動できるところへはできる範囲で自分でいってもらい。などいろいろな場面で自立支援を見ることができた。そのとき職員はお年寄りの様子を見守りいつでも介助できるように待機していた。

食事・入浴・排泄・移動など介助しようと思えば、お年寄りの生活のほとんどを介助することはできる。あるいは、介護する方の都合で（速くすませたい・次の仕事があるなど）できる

ことも介護してしまう。

しかし、そうすることでお年寄りの自立しようとする意志を損ない、尊厳さえも冒してしまうことになる。これまで、授業で介助方法やバリアフリーを扱ってきたが介護される方の自立・尊厳に目を向けることが少なかったことに気づかされた。以上のことを基に介助・ボランティアの授業を構成してみることにする。

○自立支援の授業プラン

「みんなで生きる ボランティア」（総4時間）

ねらい 車いすの基本的な介助方法を知り安全に介助できるようにする

成田真由美さんのエピソードを通じて、だれもが願いをかなえるチャンスがあることを知る。

相手の願い・自立を尊重した介助のし方を知り、意欲的に介助。ボランティア活動に参加しようという態度を養う。

車いすを知ろう（2時間）

1 どんなとき車いすを使うかを知る。

車いすをどこで見たことがありますか。

・病院 ・図書館 ・お店 ・老人ホーム

どんな人が車いすを使っているでしょう。

・足がいたい人 ・足が動かない人 ・足がない人 ・足が不自由な人
・病気の人 ・具合の悪い人 ・年を取った人 ・高齢者など

説明 車いすは、足が不自由な人や病気の人、お年寄りなどが、行きたいときに、行きたいところに行くための大切なものです。

2 車いすの使い方・介助の仕方を知る。

車いすの部品の名前と、使い方を知ろう。

フットレスト、ティッピングレバー、ブレーキ、など
動かすとき、段差を越えるとき、止まっているときなど

3 車いすを使って、介助して気の付いたことをまとめる。

グループを作って車いすをつかったり、介助したりしよう(体験)

校内のトイレ・段差・坂道など回り安全に留意し、実際の介助のつもりで取り組ませたい。

気づいたことをプリントにまとめよう。

バリアー・バリアフリー、介助するたいへんさ、乗っている側からなどを観点に発言を整理する。

必要なときに必要なことを（2時間）

1 障害を乗り越えた人のことを知る

写真の成田真由美さんについてわかることを発表しよう

写真（パラリンピック）をみて分かることを発表する。その後クイズで障害を克服してパラリンピックに出場したことを補足する。

成田さんは車いす体験をするとき2つ条件をつけました。何でしょう。

・足が使えないように、チューブで縛る。
・介助するひとは、「助けて」というまで介助しない。

どうして、すぐに介助しないのだろう。

・その人のためにならないから
・できることは、自分でした方がいいから。
・介助ばかりしているとできることができなくなるから。

説明 体は使わないと動かなくなってしまう。それに、成田さんはもう一度思いっきり運動をしたいという夢がありました。

2 自立へ向けた介助・介護を体験する。

どうしても、必要なときだけ介助してもらって車いす体験をしてみよう。

前回と同じコースを安全に留意し、無理しすぎないように車いす体験をさせたい。また、介助するときどのように言葉をかければいいのか考えながら体験させたい。

体験しての感想を書こう。

眉丈園で教えられた自立支援を話し授業を終了する。

この授業を総合的な学習で福祉を扱う際に実践したい。

IV 今後の課題

眉丈園での研修を通じて、常に職員の方々が第一に入居者とその家族が満足していただけるように職務に当たっていることが印象に残った、そして事故や苦情を自らの仕事を振り返り、改善していこうとする契機ととらえ日々見直しを行っている。またケアマネージャーを中心に介護・看護・医療担当者・本人が3か月に一度これまでのケアプランを評価し、より適切なケアができるようにしている。学校での自らの教育活動を振り返ってみると、様々な授業・行事・生徒指導等を行ってきたが、日々の児童への働きかけ・指示・支援をどれだけ評価してきたか、また学級経営や教科指導に数か月ごとに成果を評価し改善に努めていたか、が反省させられた。

1か月の間に、いろんな部署の方から話を聞くことができた。ケアワーカーの方々、看護師、ケアマネージャー、生活相談員、室長、施設長、その誰もが、自分の仕事に目標と願いを持って働いていることを知った。

今の自分の仕事にやりがいを持って仕事に向かっている職員の方々の姿に学校では感じることのできない刺激を受け、これからの仕事に向かっていく気力をいただいた。

最後に、様々な部署で、貴重な時間をさいて職員の方が大切に思っていることを教えてくださった眉丈園の職員の皆様、快く接して下さった利用者の皆様に深く感謝申し上げます。

また、貴重な研修機会を与えてくださった総ての方々に感謝申し上げます。